



緑区 芝原小学校 教頭 佐藤 健

本校は、昭和58年4月1日に三室小より分離独立し、来年度で開校30周年を迎える。この30年の本校の歩みを紐解くと、正に地域に支えられ、地域とともに歩んできた30年と言える。

学習以外にも、1年生活科「昔遊びを教わろう」2年生活科「どきどきわくわくまちたんけん」等、協力をいただいております。地域の方々には、豊かな教育活動の展開に貢献していただいている。

1 地域住民が作詞

校歌「のびる みどりの歌」

本校の校歌は、地域住民である大堀民夫氏が作詞したものである。本校の校歌には副題があり「のびる みどりの歌」としている。芝原の子どもたちを萌え立つ「若草」に例え、子どもたちの伸びゆく姿を歌い上げている。地域の子どもの姿をよく見ているからこそ、そして、地域に生きる大人として子どもたちに望みを託しているからこそ、このような素晴らしい校歌が出来上がったと思われる。



2 人とふれあう

学校教育ファーム・体験学習

現在の本校の教育活動においても、地域の教育力を生かした活動が多い。学校教育ファームでは、地域自治会長を中心とした有志で協力をいただいている。児童に対しては農業指導が中心であるが、その他にも畝作りやマルチ掛け等の準備、草取り等の管理までお世話になっている。「こうやると子どもたちが喜ぶだろう。」「この方法では子どもたちはできないな。」と、児童の事を一番に念頭において協力していただいていることが有り難い。

3 地域の子どもを育てる

防犯ボランティア・育成会

校外の活動では、児童の登下校の安全の見守り活動として防犯ボランティアに活動していただいている。本校の防犯ボランティアは、平成18年4月に結成し、現在では36名が登録し、当番制で活動しており、これまで大きな交通事故等もなく児童の安全が見守られている。先日、これまでの活動が認められ、県知事表彰を受けた。

また、地域の教育力の低下が嘆かれている昨今、この芝原・三室地区は、「地域の子どもは地域で育てる」意識が大変高く、育成会活動、子供会活動が活発である。育成会活動では、夏に開催される「映画会」、つきたての餅を楽しむ「みむろっ子まつり」、郷土かるたで競い合う「かるた大会」、三室の春をウォッチングする「ウォークラリー」と、子どもたちが楽しみに参加し、地域の大人や自然とふれあえる行事が数多く企画されている。これらの活動を通して、子どもたちへの地域の思い、願いがひしひしと伝わってくる。

6年の社会科学習では、「室町文化を学ぶ」と題して、公民館で活動しているサークル団体の方々を中心とした地域講師を招いて、体験学習を毎年実施している。茶道、華道、水墨画、能・狂言と現在に伝わる伝統文化に短時間ではあるが直接的にふれることは、児童にとって貴重な体験活動となっている。この

地域に支えられてまもなく30周年。これまで以上に地域との「絆」を大切にしたい学校としていきたい。